

視察報告書

(遠野市及び、山形県南陽市)

平成 29 年 11 月 22 日

釜石市議会 海盛会

平成 29 年 11 月 22 日



釜石市議会議員 佐々木義昭様

釜石市議会 海盛会
代表者 古川愛明

会派視察調査報告書

海盛派所属議員（古川愛明、海老原正人、合田良雄、赤崎光男）による視察調査を、平成 29 年 11 月 15、16 日、遠野市及び山形県南陽市で下記のとおり実施致しましたので、報告します。視察調査行程は、別紙資料の通りです。

1, 視察項目： 地元産木材使用の新市庁舎について（遠野市）

日 時：平成 29 年 11 月 15 日 午前 9 時 30 分～11 時

参加者：古川愛明、海老原正人、合田良雄、赤崎光男

相手方：遠野市議会事務局長 村上猛

遠野市議会事務局長次長 佐藤邦昭

場 所：遠野市役所庁舎内

研修内容：

① 視察先に選んだ理由

昭和 61 年 11 月に釜石市庁舎建設検討委員会が設置されて以来、長年の懸案事項となっておりました釜石市庁舎建設が本格計画になるにつれて、平成 28 年 7 月に釜石市新庁舎建設検討委員会を設置し、第 1 回新市庁舎建設検討委員会が開催されました。平成 29 年 8 月第 5 回新市庁舎建設委員会が開催され、新市庁舎建設に関する提言書が提出されました。議会におかれましても平成 29 年 10 月 20 日議員全員協議会で議論がなされ、今後、実施計画へ移行していく上で釜石市産材を使用し、新市庁舎を建設されたらとの思い、又、海老原議員の「こだわりのある建設物としたら」との意見等から地元産材を使用した遠野市における新市庁舎を選んだものであります。

② 遠野市役所新庁舎の概要

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災による市役所中央館の被災から 6 年半、ショッピングセンターとびあ、県合同庁舎宮守総合支所などに各部署を分散させて市役所機能を維持してきました。被災庁舎に対する国の財政支援を受け、市民の皆様のご理解とご協力により分散した部署を集約できる規模を確保し、商業施設との複合庁舎として再建致しました。

新庁舎の基本コンセプト

- ①中心市街地活性化の核となる庁舎
- ②市民の利便性の向上を目指した庁舎
- ③市民に親しまれ開かれた庁舎
- ④環境にやさしく防災機能を備えた庁舎

③ 特徴

瓦屋根の正面玄関、遠野産材を印象的に活用し、遠野市が林業の町であることを PR します。
社寺建築に用いる伝統木組を採用、伝統と新しさが融合するデザインは遠野市の街並みと調和します。

視察経過：

遠野市役所新校舎前に車で入り、時間が少々早かったのですが、佐藤次長の出迎えを受ける。早速、伝統木組の正面玄関から説明を受けながら入りました。木の香りがほんのりする木造の特徴である建築物であると感じました。この日もう一組の視察があるという事で佐藤次長から村上局長へバトンタッチされ、村上局長の挨拶の後で議長控え室、議場、多目的大会議室、とびあ庁舎等順次説明されました。質問等はその場、その場で行なわれております。

所 感：

遠野市役所新庁舎を選んだのは海老原議員の全員協議会での質問の中で「こだわり」という言葉が非常に印象的であったこと、会派の中でも意見を聞きますと「こだわり＝木材」という事で、この際、釜石市役所新庁舎も木材にこだわったらとの考えから、地元産材で建築されました遠野市役所を視察場所を選びました。釜石市役所新庁舎もこだわりの地元産材での建築をなされるべきと考えます。

2, 視察項目： 地域産材を使用し建築された
南陽市文化会館「シェルターなんようホール」について

日 時：平成 29 年 11 月 16 日 午前 9 時 30 分～11 時

参加者：古川愛明、海老原正人、合田良雄、赤崎光男

相手方：南陽市議会議員 川合猛

シェルターなんようホール館長 板垣俊一

シェルターなんようホール

南陽市みらい戦略課課長補佐 長島透

南陽市議会事務局事務局長補佐 田中聡

株式会社シェルター 渡辺卓也

株式会社シェルター 鈴木謙介

場 所：シェルターなんようホール

(南陽市文化会館)

研修内容：

① 視察先に選んだ理由

遠野市役所新庁舎とほぼ同じであります、シェルターなんようホールは全国で初となる大型木造耐火建設の文化ホールであることです。

② シェルターなんようホールの概要

主な用途 → 集会所

地上 3 階、地下 1 階

木造一部 R C 造

建築面積 5, 5 6 4 m²

延床面積 5, 9 0 0 m²

大ホール 1, 4 0 3 人収容

小ホール 5 0 0 人収容

③ 設計コンセプト

- ・地元産木材（杉）の積極的な活用
- ・静けさと響きがよい音響性能の確保
- ・誰もが快適に利用できるようユニバーサルデザインに配慮
- ・十分な耐震性と災害時の防災拠点としての機能を有する
- ・太陽光発電や木質バイオマス等の再生可能エネルギーの積極的な活用

④ 特徴

- 設計コンセプトの通りの出来上がりである。
- 地域の木材を活用
- 地域の企業で施工
- 地域に雇用を創出

視察経過：

議会事務局長補佐田中さんの出迎えを受ける。議会事務局で20分位懇談し、シエルターなんようホールに案内される。なんようホール館長さん等に出迎えを受ける。外観では見られなかった木材の威容が入口ホールで感じる。会議室にてパワーポイントによる概要を長島さんより説明を受ける。2、3の質疑があり館内を回りながら説明を受ける。木の優しさに包まれるホール、ギネス世界記録の認定「最大の木造コンサートホール」特にも大ホールを全て木での建築を強調される。会議室に戻り散会する。

所感：

計画当初からこのような大きな文化会館の建設の予定ではなかったが、当時の市長の熱い、熱い意気込みで計画が大きくなっていったもののようです。建設中から全国から見学者7,000名余りが訪れていて、自治体等の視察も数多くあり、オープンしてから1年間の来館者数は約23万人と市長の思いが通じたか、文化会館への収容者数1,403人ということもマッチングしたようです。さらには開館以来、宝塚歌劇での平成27年10月オープニングショーからこれまで、ほとんどのショーが満席となっており、その経済効果なるもの、もの凄い事になっておるようです。

北海道、東北産材が多く使われていることがわかりました。又、北海道、東北の業者が関わりを持った建設物があること、今回視察しました遠野市の企業が大きく関わり建設に参加していたこと等々、日本国の木材で耐火に問題なく、このような大きな建築物が出来ること、法的な根拠が備わってきていること、諸々に考えますとこれから建設を進めようとする釜石市新庁舎においても「木」を中心とした地元産材を使用した地元森林業者を中心とした原木の調達をし、経済への波及を考え新庁舎を建設するべきと考えます。

この際「木」にこだわって欲しいです。



(遠野市新庁舎正面玄関前にて)



(議長控え室にて)



(遠野市議場にて)



(遠野市新庁舎正面玄関にて)



(シェルターなんよう議会事務局にて)



(大ホールにて)



(交流ラウンジにて)



(入口ホールにて)



(シェルターなんようホール玄関にて)